

第120回愛農大学講座…2010年度就農準備名古屋校・三重教室入門コース【F30/合宿/夏】プログラム

8/20 (金) 6:00～ 7:00 [講話又は 朝の作業]	14:00 15:30 16:00 17:00 19:30 21:00		開講式 アイスブレイキング オリエンテーション	愛農キャンパス 農場見学	自己紹介
8/21 (土) [早朝講話] [岡野 正義]	9:00 講話 11:50 有機農業基礎 ～有機農業実践の現場から～ [林重孝]	14:00 実習 17:00 よい苗づくりとは ～種まき・苗づくり実習～ [林重孝]	19:30 21:00 気功を学ぶ ～お話を聞きながら 体をほぐす～ [山口志津子]		
8/22 (日) [朝の作業]	9:00 講話 11:50 育土講座 ～有機栽培は土づくりから～ [橋本力男]	14:00 実習 17:00 堆肥のレシピ ～作り方使い方～ [橋本力男]	19:30 座談会 21:00 若返った僕の村 ～その原動力となったもの～ [霜尾共造]		
8/23 (月) [早朝講話] [霜尾 共造]	9:00 講話 11:50 就農3年目の経験から ～農業で生きるための原動力とノウハウ～ [村山邦彦]	14:00 実習 生活技術としての加工 選択実習 A班:ニワトリの解体(濱田雄士) B班:農産加工実習(いが野の農園)	16:30 17:30 実習 夕方の作業	19:30 21:00 自由時間	
8/24 (火) [早朝講話] [直木 葉造]	9:00 講話 11:50 自家・地域自給の可能性 ～桜の山農場の取り組みから～ [坂本耕太郎]	14:00 実習 16:30 17:30 選択実習 A班:食肉加工～ソーセージ作り～ [田中亮太/山のハム工房ゴーバル] B班:草木染め[宮谷結花]	16:30 17:30 実習 夕方の作業	19:30 交流会 21:00 一緒に学ぼう・つなげよう ～種まきびとの会の取り組み～ [乾竜介]	
8/25 (水) [早朝講話] [島 しづ子]	9:00 講話 11:50 混迷を深める工業社会の中で ～生命を支える農的暮らしとは～ [槌田 劭]	14:00 実習 17:00 農業機械の保守管理と安全操作 [廣倫治・川原田悦治ほか]		19:30 21:00 ビデオ鑑賞	
8/26 (木) [朝の作業]	9:00 講話 11:50 人・地域・自然を育む提携・流通をめざして ～あいのう流通センターの取り組み～ [池野雅道]	14:00 講話 17:00 千年持続学の探求と実践から ～持続可能な暮らしと社会の提案～ [高野雅夫]		19:00 座談会 21:00 私のライフワーク ～農の担い手を育む 取り組みから～ [奥田美和子]	
8/27 (金) [早朝講話] [石井 康弘]	9:00 実習 17:00 農業実習 ～朝から夕方まで農家に入っの農業実習		19:30 交流会 21:00 農家の皆さん とのテーマ別 交流会		
8/28 (土) [早朝講話] [泉川 道子]	9:00 講話 10:30 持続可能な農業の 役割と今後の展望 [奥田信夫]	11:00 実習 11:50 堆肥の切り返し	14:00 講話 16:30 18:00 ブルーベリーフィールズ が提供する豊かな食と夢 [岩田康子]	19:30 21:00 歓送会 そして 感想会	
8/29 (日) [早朝講話] [奥田 信夫]	9:00 講話 10:30 12:00 今こそ農業の時代 ～農業人生50年のあゆみ～ [石沢重吉]	感想文 ・ 閉講式		※農家実習では、近隣の農家（新規就農も含む）にお世話になります。養鶏・野菜・作物農家が中心です。農家実習の行き先・選択実習の配分は前日に希望をとって決めますが、希望どおりにならない場合もあります。ご了承下さい。 ※プログラムはやむをえず変更する場合があります。	

おもな講師紹介

【林重孝・はやししげのり】
1977年、大学の農学部を卒業後、代々農業を営む実家で就農。3年日、近代農業に疑問を抱き、埼玉の金子美登氏のもとで1年間研修をした後、有機に転向。数年間は病害虫に苦勞するが、その後は安定した有機農業を実践。現在、畑150a、果樹30a、合計1.8haで、旬の野菜年間約80品目、大豆、キウイフルーツを栽培。150羽の平飼い養鶏も行う。にんじんジュース、きな粉、チキンソーセージ、煎り豆なども生産し（一部委託加工）、100軒ほどの消費者に配達している。また、日本有機農業研究会種苗部担当理事を務め、全国各地の在来種の保護、増殖、普及に取り組む中。

【橋本力男・はしもとりきお】
1952年三重県一志郡美杉村生まれ。1977年東京農大卒業後、有機野菜作りに取り組む。現在、野菜と堆肥と苗の販売、生ゴミ処理機の開発をしながら、県内外で年80回以上の講演をこなしている。現在、三重大学非常勤講師、独立行政法人農業者大学校講師、三重県農業大学校講師。

【村山邦彦・むらやまくにひこ】
機械エンジニア、高校教員などを経て、第109回愛農大学講座を受講。2年の農家研修の後、2007年秋に三重県伊賀市で新規就農し、有機農業に取り組んでいる。耕地は露地を中心に約7反、葉モノやトマトなどの野菜を生産。土壌分析を活用して施肥設計を行うなど、科学的なアプローチを重視し、経営も初年度より順調に推移。農業を志す若者向けの勉強会を主催するなど、技術交流や次世代育成にも積極的に携わる。

【坂本耕太郎・さかもとこうたろう】
2000年に愛農高校を卒業後、和歌山、北海道での農業研修を経て結婚。両親が開拓した山の農場「桜の山農場」で百姓としての一步を踏み出す。「平和について考える」とエネルギーにたどりつく」という言葉に衝撃を受け、国産飼料を使った豚の放牧を行ったり、車や農機具の燃料に天ぷら油を使用する、ガスを使わずスカクどや薪で生活するなど、楽しみながら「自給知足」の生活を営む。
(桜の山農場の毎日を伝えるブログ→<http://ameblo.jp/sakuranoyama/>)

【槌田 劭・つちだたかし】
1935年京都市に生まれる。1958年京都大学理学部化学科卒業、同大学院を経て米国に留学。1967年、京都大学工学部助教となる。1979年、同大学を退職、同年より京都精華大学教員として勤務。その間1973年に「使い捨て時代を考える会」設立、様々な実践活動を通して“現代”を考え、未来の可能性を模索している。著書に「共生共貧・21世紀を生きる道」など多数。

【池野雅道・いけのまさみち】
1970年代中頃から仲間と共に産直活動を始め、1980年秋に愛農の生産者と愛農食品生産組合を結成。その2年後には生産者が運営する食品流通会社、(株)愛農流通センターを設立、社長に就任し現在に至る。地元である愛知県豊田市樽俣(旧小原村)では、NPO法人矢作川自給村稲穂の里を主宰、都会の消費者とその子どもたちに、週末農業の機会を提供している。また、耕作放棄地を請け負い管理を行う、農業法人農地管理センターの運営も手がける。

【高野雅夫・たかのまさお】
さまざまな分野の専門家と協働し、地下資源が枯渇した千年後でも持続可能な地球と社会のシステムをつくりだすための「千年持続学」を構想する。また行政やNPOと協働し「千年持続社会」を実現するための活動に参加。農山村に入り、里山の豊かな資源で持続的に生きるノウハウを模索・実践している。現在、名古屋大学大学院環境学研究科准教授。
(持続可能な社会のイメージを日記風に書き綴った「風森まちのお気楽日記」→<http://www.eps.nagoya-u.ac.jp/system/masao/okiraku.htm>)

【岩田康子・いわたやすこ】
35歳の時、離婚を機に琵琶湖を望む丘に移り住みブルーベリーの栽培を始める。2年後、自宅でフランス料理でもてなす事業を始め、1995年火災を機にハーブガーデンと40席のレストランを新築。「ブルーベリーフィールズ紀伊國屋」代表として独自の経営戦略を展開中。

▲農業教育・体験の有無：無・有（下も記入）
農業高校 農業専門学校 大学（農学部）
自家（農家出身） 家庭菜園 その他（ ）
▲就農希望の有無：無・有（ 年後就農希望）
▲受講希望：全期間受講希望・部分参加希望

▲部分参加の方は下に記入
 8月 日 講義名
 8月 日 講義名
 8月 日 の（朝食・昼食・夕食）から
 8月 日 の（朝食・昼食・夕食）まで
 ※講座名・食事の両方にご記入ください